

お客様各位

株式会社 セゾン情報システムズ
カスタマーサービスセンター

DataSpider Servista

Salesforce API の従来バージョン廃止に伴う設定変更のお願い

平素より、テクニカルサポートサービスをご利用いただき、誠にありがとうございます。

DataSpider Servista の Salesforce アダプタ・Salesforce Bulk アダプタで、Salesforce 社のアップデートによる API の従来バージョン廃止に伴い設定変更が必要な場合がございます。

Salesforce アダプタ・Salesforce Bulk アダプタをご利用のお客様は、以下内容をご確認ください。

－記－

1. 対象製品及びバージョン

- DataSpider Servista Advanced Server Package
- DataSpider Servista Basic Server Package
- DataSpider Servista Select

※下記影響範囲のアダプタをご利用のすべてのバージョンが対象です。

2. 影響範囲

- Salesforce アダプタ
- Salesforce Bulk アダプタ

対象の API バージョン

- ・ API7.0、API14.0、API18.0 (API 20.0 以前)
Salesforce Summer'21 / リリース時期：2021年6月までに設定変更が必要
- ・ API23.0、API26.0、API29.0 (API 21.0～30.0)
Salesforce Summer'22 / リリース時期：2022年6月までに設定変更が必要

3. 影響内容

Salesforce 社により、[2. 影響範囲] 記載のスケジュールで SOAP API、Bulk API、REST API の従来バージョンが廃止となります。これに伴い、Salesforce アダプタ、Salesforce Bulk アダプタにて廃止対象の API バージョンをお使いの場合、Salesforce 社のアップデート後には Salesforce への接続ができなくなります。

4. お客様へのお願い事項

Salesforce アダプタ、Salesforce Bulk アダプタを利用されているお客様におかれましては、該当の API バージョンをご使用されているかをご確認いただき、ご使用されている場合には大変お手数をおかけいたしますが、[2. 影響範囲] 記載の Salesforce 社のアップデートまでに設定変更の対応をお願い申し上げます。

(ご参考)

▼ Lightning Platform API の従来バージョンの廃止

<https://help.salesforce.com/articleView?id=000351312&language=ja&mode=1&type=1>

▼ Salesforce Platform API バージョン 21.0 ~ 30.0

<https://help.salesforce.com/articleView?siteLang=ja&id=000354473&language=ja&mode=1&type=1>

5. 設定変更方法

本文書末の別紙資料に記載いたします。

スクリプトの変更は不要です。設定変更中はトリガーを無効にする必要がありますのでご注意ください。

API バージョンによっては、プロパティ、コンポーネント変数、出力スキーマが追加されています。また、例外処理や丸め処理などを変更しているコンポーネントがあります。ヘルプにてバージョンごとの変更箇所を確認し、スクリプトの処理に影響がないか確認をお願いいたします。

6. 当ご案内に関する問い合わせ先

技術サポートサービス契約先にお問い合わせください。

以上

【改訂履歴】

2021年2月25日	初版作成
------------	------

別紙：DataSpider Servista Salesforce アダプタ Salesforce API の従来バージョンの廃止に伴う設定変更方法

1. 設定変更対象となるグローバルリソース

■アダプタの種類

- ①Salesforce アダプタ
- ②Salesforce Bulk アダプタ

■グローバルリソースの設定

グローバルリソースの設定ダイアログの [種類] 列から、API バージョン（下表の赤字箇所）を確認します。

アダプタの種類	種類
Salesforce アダプタ	Salesforce (Salesforce 接続設定 API X.0)
Salesforce Bulk アダプタ	Salesforce Bulk (Salesforce 接続設定 Bulk API X.0)

(表示例)

名前	種別	種類	オーナー	プール数(う...)	プール上限
新しいグローバルリソースの作成					
Salesforce接続設定	デフォルト	Salesforce (Salesforce接続設定 API 7.0)	root	0 (0)	不可
Salesforce接続設定 (1)	デフォルト	Salesforce (Salesforce接続設定 API 23.0)	root	0 (0)	不可
Salesforce接続設定 (2)	デフォルト	Salesforce (Salesforce接続設定 API 34.0)	root	0 (0)	不可
Salesforce接続設定 Bulk	デフォルト	Salesforce Bulk (Salesforce接続設定 Bulk API 18.0)	root	0 (0)	不可
Salesforce接続設定 Bulk (1)	デフォルト	Salesforce Bulk (Salesforce接続設定 Bulk API 23.0)	root	0 (0)	不可
Salesforce接続設定 Bulk (2)	デフォルト	Salesforce Bulk (Salesforce接続設定 Bulk API 34.0)	root	0 (0)	不可

■設定変更対象となるグローバルリソース

API バージョンが下記の場合、変更が必要です。

設定変更要否	Salesforce アダプタ API バージョン	Salesforce Bulk アダプタ API バージョン
Summer'21(2021年6月)までに設定変更が必要	7.0	-
	14.0	-
	18.0	18.0
Summer'22(2022年6月)までに設定変更が必要	23.0	23.0
	26.0	26.0
	29.0	29.0
設定変更不要	34.0	34.0
	40.0	40.0
	43.0	43.0

2. 変更方法

■概要

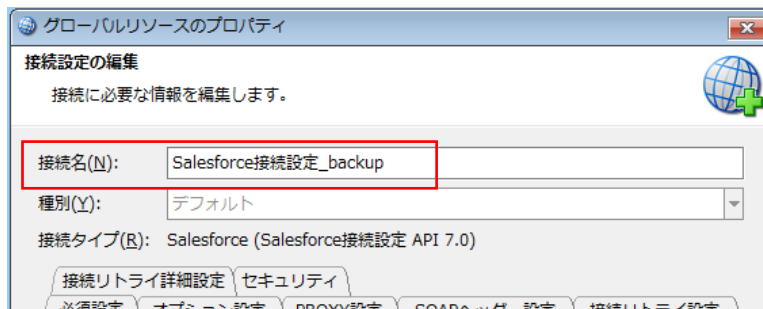
現在のグローバルリソースの接続名をリネームし、新しいバージョンのグローバルリソースを同じ接続名で作成します。

■補足

- 他の画面を開いていない状態（Studio にログインした直後の状態）で実施してください。
- グローバルリソースに設定する情報（接続先のユーザー名、パスワード等）は事前に確認した上で、実施してください。
- 設定変更時は変更対象のグローバルリソースを使用するスクリプトが実行されていないことをご確認ください。
- 設定変更中はトリガーを無効にする必要がありますのでご注意ください。

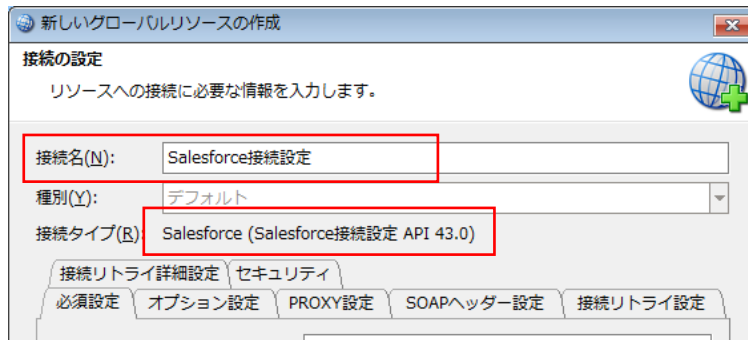
■手順

1. マイトリガーからすべてのトリガーを無効化します。
2. グローバルリソースの設定画面で、種類が変更対象であるグローバルリソースのダイアログを表示します。
変更対象のグローバルリソースは、前ページ「設定変更対象となるグローバルリソース」を参照ください。
3. 変更対象のグローバルリソースの接続名をリネームします。
 - 3-1. 接続名の後ろに「_backup」等の文字列を付与します。
 - 3-2. [OK]ボタンをクリックします。



4. グローバルリソースを新規作成します。
 - 4-1. [3.]でリネームしたグローバルリソースのリネーム前の接続名を入力します。
 - 4-2. 他の設定は、[3.]でリネームしたグローバルリソースを参照し入力します。
 - 4-3. [OK]ボタンをクリックします。

※APIバージョンは 43.0 、 40.0 、 34.0 から選択してください



5. マイトリガーから無効化したトリガーを有効化します。

3. スクリプトの確認

- グローバルリソースを設定変更しても、スクリプトを再保存は不要です。
- APIバージョンによっては、プロパティ、コンポーネント変数、出力スキーマが追加されています。また、例外処理や丸め処理などを変更しているコンポーネントがあります。ヘルプにてバージョンごとの変更箇所を確認し、スクリプトの処理に影響がないか確認をお願いいたします。

以上